

冬休みの思い出を話そう！

【対象生徒】 中学部

【自立活動の項目】人(1)、コ(1)(2)

【ねらい】

- ・物事と手話、文字とを結び付けて、読み取ったり書いたりできることばを増やす。
- ・「いつ」「だれ」「どこ」など疑問詞の手話表現やその意味が分かり、質問に答える。

【題材のポイント】

- ・生徒の経験を取り上げることで、体験と手話表現、文字が結び付きやすい。また、自分なりの表現で伝えようとする気持ちを引き出すことができる。
- ・他の出来事でもやりとりする経験を積んだり、5W1Hの質問に答えたりする場を繰り返し設定できる。

【生徒の様子】

- ・写真をもとに、お父さんと映画を見に行ったことを自分から話し始めた。伝えたい気持ちが大きく、写真にない事柄も教師に話す姿が見られた。また、他の出来事を取り上げた際も、同じように「どこ」「だれ」「なに」などの質問をすると、質問に合った返答を考える様子が見られた。
- ・教師が表現した「映画」「映画館」の手話を覚え、他の教員にも伝えていた。「えいが」などの語句を文字のまとまりとして覚え、読み取ったり書いたりする姿が見られた。

経験したことを写真やイラストで提示。生徒の発言（手話）を文字化して板書し、読み書きできることばを広げる。



「だれ」「どこ」の文字カードと手話を併せて提示。また、「だれ」は人、「どこ」は場所を問われていることが分かるよう、文字カードと答えを対比させながら確認する。